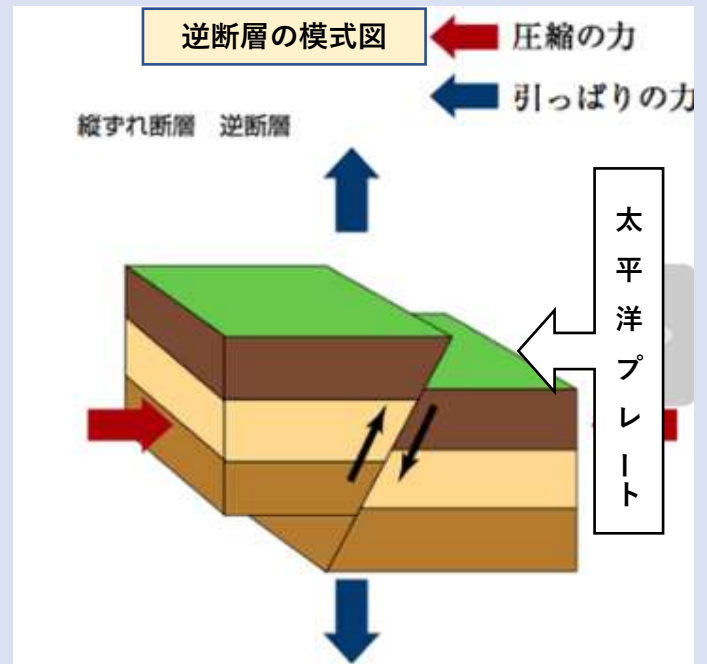
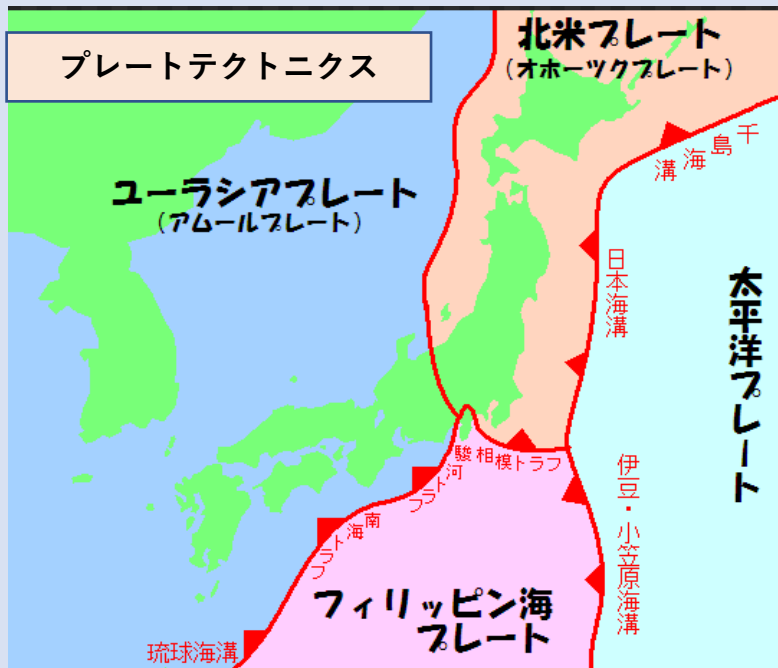


元旦に能登半島で大地震が発生

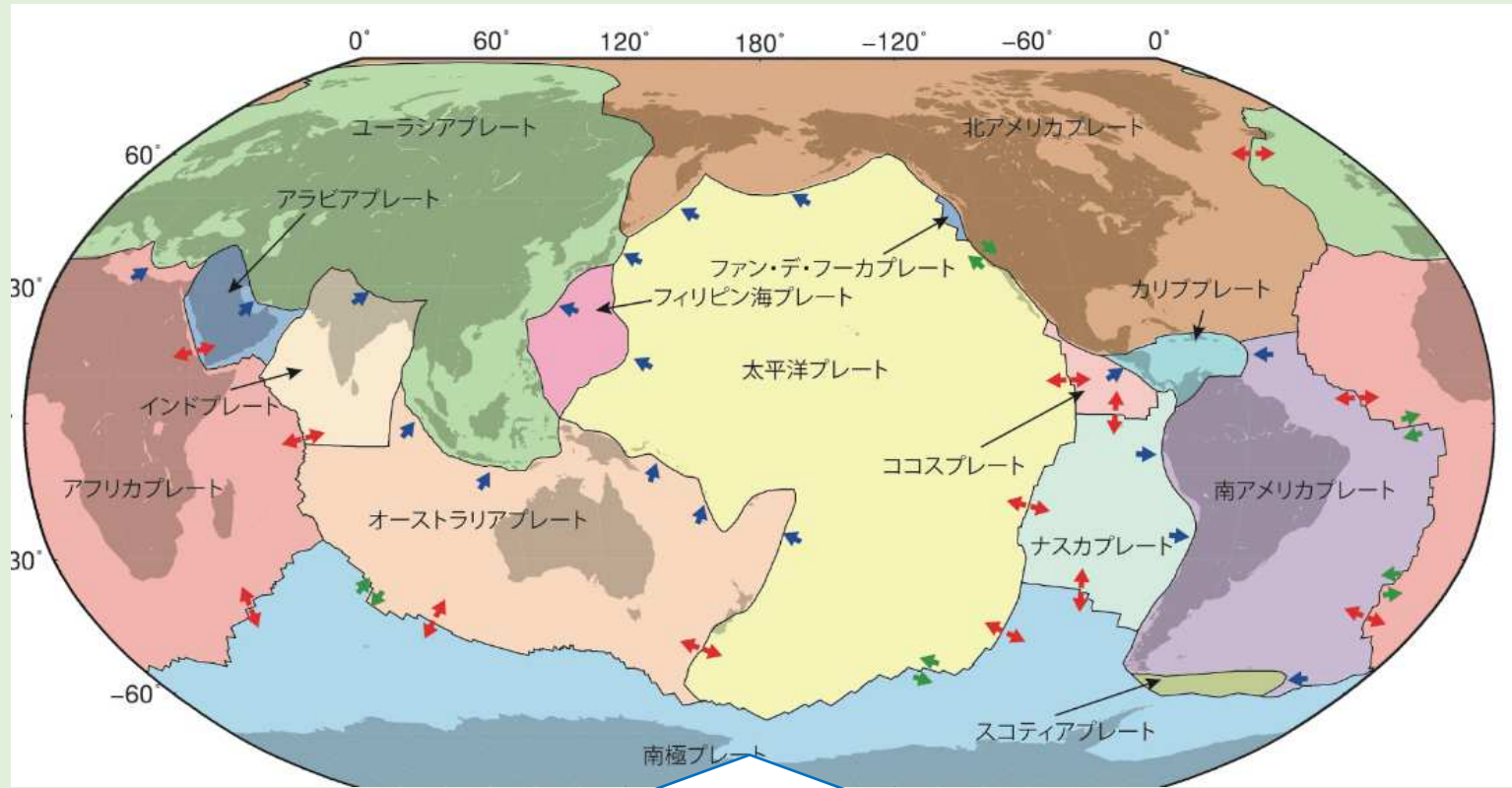
誰もが新しい年の平穏と多幸を祈る元旦に、石川県の能登半島をマグニチュード7.6、最大震度7の大地震が襲いました。北海道から九州までの広い範囲で揺れを観測し、多くの建物が倒壊し名物の輪島朝市商店街は地震による火災のため一帯が全焼するという大きな被害となりました。

この大地震、最近では2016年の熊本大地震（震度7、マグニチュード7.3）が記憶に新しいのですが、2011年にはあの東日本大震災（マグニチュード9.0）が発生しており、日本では5～6年に1回の割合で大地震が起っています。これは日本が位置しているプレートの地学的な部分に理由があります。下記の図のように地球は大きなプレートに覆われていますが、日本はそのうちの4つの接点に位置しており、東日本大震災は太平洋プレートが北米プレートに潜り込んでいる地点で発生しました。今回の能登半島大地震は北米プレートがユーラシアプレートに潜り込みユーラシアプレートが浮き上がった逆断層によるものです。このように日本は常に地殻変動の真ただ中にあるといえます。

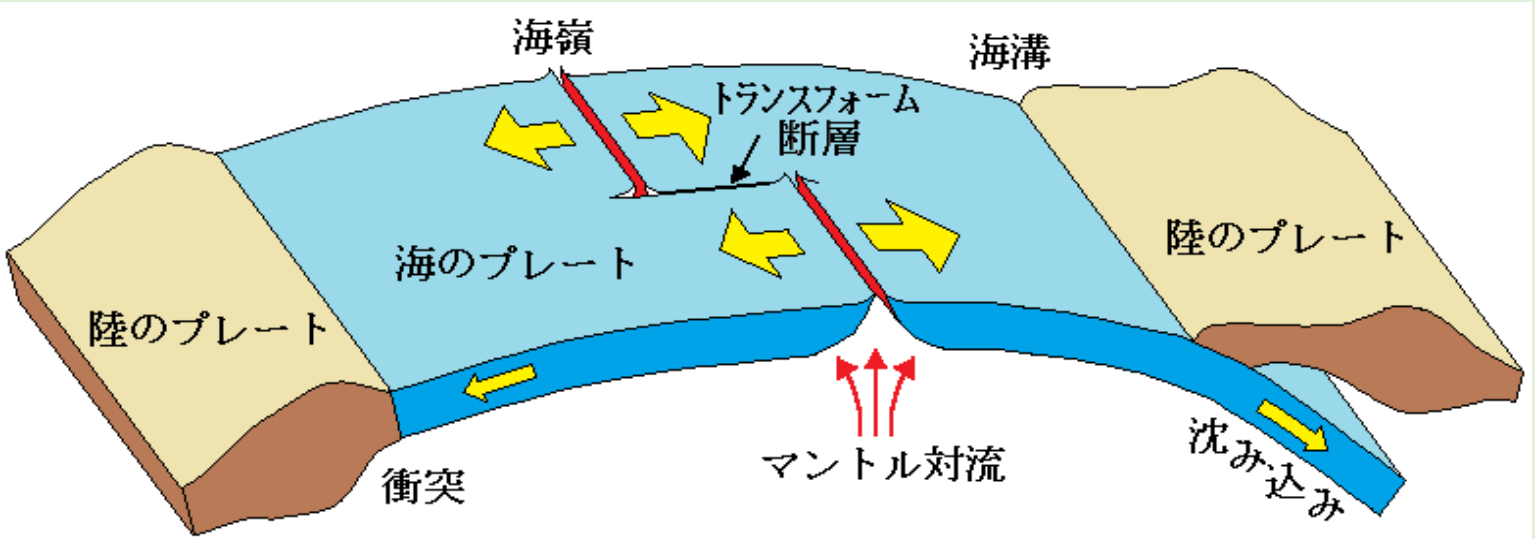


地球上ではこのプレートの境目では常にプレートの潜り込みと跳ね上がりが起こっており、この地殻の変動が地震となって私たちの生活を脅かしているのです。プレートの沈込みのスピードや跳上がりのタイミングは地球のメカニズムなので推測することができず、地震が突然襲うということになってきます。地球上のプレートは下記の図のように南極プレートを含んで15のプレートがひしめき合っています。アフガニスタンやトルコで地震が発生するのはアラビアプレートがユーラシアプレートと接しているからですが、日本のように4つのプレートが接している国は多くありません。オーストラリアはプレートの真ん中にあり比較的安定していますが、ニュージーランドはプレートの際で地震が多い国です。

地球のプレート図



地球はこのような15のプレートで構成されており、海と陸地は全てプレートの上に乗っています。このプレートは地球の中の溶けたマントルの上に乗っています。



上図のように地球のマントル対流により海のプレートは陸のプレートの下に潜り込み陸のプレートは地殻の中に押し込まれますが、一定量押し込まれると元に戻る作用があります。それが地震となるのです。現在の科学では地震を防ぐことはできませんが地震に対処することはある程度可能になってきました。でも地震の規模がマグニチュード6.5~7.0までくらいでしょう。